

ハイブリッドユニット工法 現場見学会を開催(その2)



(写真1) クレーンで吊ったパネルをほぞパイプに落とし込んで取付けるだけ



(写真2) 1階の外壁パネルは、わずか30分で終了した

埼玉の(株)益田建設(本社・埼玉県八潮市、益田修一社長)では、木造在来住宅の超合理化工法として非常に注目されている「ハイブリッドユニット工法」(本誌・10月号P47で紹介)の建て方を11月27日に公開した(先月号P31より続く)。

業界関係者が多数見学に訪れ、新工法の施工方法、驚異的な工程進行の速度を確認した。ハイブリッドユニット工法による建築は今回で3棟目で、1棟目と同じ八潮市の筑波新線・八潮駅近くの分譲地で行われた。このハイブリッドユニット工法

は、昨今の現場職人不足や今後の大工、建築技能者などの激減という状況に対して、木造在来軸組工法の担い手がいなくなり生産がでなくなるとの危機感から、大工技能を持つていない人々でも木造住宅を建築できる仕組みを目指して開発されたもの。

施工は、このパネルを使い1階外周、2階外周を建て込んで、屋根パネルを取付けて終了となる。在来木造の建て方では、1日で構造躯体の骨組みだけが立ち上がるか、屋根の野地合板の取付けまでだが、構造的には同じ木造軸組でありながら、サッシ、透湿防水シート、ルーフィングまで行い外回りが決められる。在来と比べ2週間分の工程が1日で完了できるという。

施工は6人で担当。いずれもツバイフォー工法のフレイマー。当日は3棟目ということもあってスムーズに作業を進めた。

(来月号に続く)